

ローカル路線バスの救世主『客貨混載バス』

四国交通株式会社 原田 佳彦

●はじめに

1957年(昭和32年)10月14日、徳島県西半分に路線網を広げていた徳島西部交通からほかの4つの交通事業者とともに分離独立し。その6年後の1963年(昭和38年)徳島バスの子会社として再出発して現在に至っている。

路線バスが祖谷線、出合線、山城線、漆川線、井内線、白地線、野呂内線、三加茂線、本社線の9路線、高速バス路線が大阪線、神戸線の2路線、大歩危・祖谷地方を巡る定期観光バスを運行する乗合旅客自動車運送事業と貸切バス6輛の貸切旅客自動車運送事業を行っている。

●三好市 概要

徳島県のもっとも西部に位置し南は高知県、西は愛媛県、北は香川県の徳島県でも唯一3県に隣接しております。三好市の90%近くが山地であり市の中央部は四国三郎吉野川が横切っています。

三好市の人口は今年9月末現在24914人で少子高齢化が進み若者は徳島市内、関西方面へ働きに出ることも多いようで毎年700人近く減少し続けている。

観光要素では、8年ほどの間でインバウンド効果により外国人観光客が大歩危、祖谷地方へ多く観光で訪れて、公共交通を利用、レンタカーが走っている姿を多く見かけていた。しかし、現在は新型コロナウイルスの影響でこれも落ち込んでいる。

●祖谷線路線情報

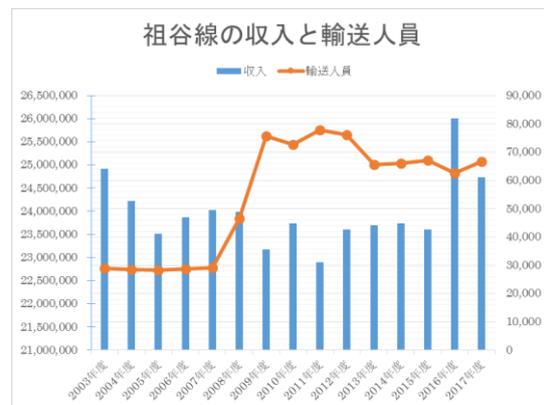
客貨混載バスは四国交通本社～阿波池田バスターミナルそして阿波池田から東祖谷の久保間で運行する路線です。1日4往復8便運行しておりますダイヤの中で、1往復2便で運行している。

こちらが過去15年の四国交通全体の一般路線バス全体の収入(棒グラフ)と、輸送人員(折れ線グラフ)です。



全体的に右肩下がりのグラフではあり15年前と比べおおよそ半分の輸送人員、また収入も5千万円マイナスとなっている。

次に「つながる未来バス」が運行しております祖谷線の収入(棒グラフ)と輸送人員(折れ線グラフ)です。



輸送人員は平成20年度から4万人プラスとなっているのが分かる。これはインバウンド効果で、祖谷線運賃収入のみ見れば平成23年度から上昇していることが分かる。

●客貨混載の準備

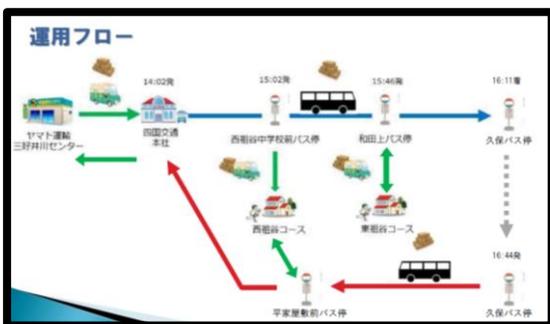
2017年4月にこの事業の計画をはじめた。路線バス収入の維持と向上、そしてエコにも対応できるという考えからヤマト運輸さまと準備した。

「祖谷方面へは弊社もヤマト運輸さまも同じ国道32号線を利用しているというこ

とから客貨混載が実現できないものか」と話し合いを重ねた。兵庫県養父市に本社があるバス事業者さまに、現段階で四国交通が協議している内容と似たものだったため視察に伺わせて頂いた。現地で作業の様子、担当者とお話しをお聞きでき、バス改造の方法、苦労した点、などお聞かせ頂いた。

●運行の実態

四国交通は、ヤマト運輸阿波池田営業所に午後便で到着したお荷物の中から、祖谷地区、山城地区へ配達するお荷物をヤマト運輸セールスドライバーが四国交通本社車庫にてバス車内に運び込むというかたちである。



四国交通本社営業所車庫 14:02 出発の阿波池田バスターミナル行きのこのバスは、阿波池田バスターミナルに到着し、引き続き 14:24 発の久保行きとなり祖谷方面へ荷物が運ばれる。

祖谷地区では、西祖谷地区、山城地区それぞれの担当のセールスドライバーが西祖谷中学校前停留所で待機し 15:02 に到着するバスで運ばれてきたお荷物を運び出し、また逆に集荷してきたお荷物を載せる。バスはさらに東祖谷地区で和田上停留所にてお荷物を運び出し、こちらでも集荷してきたお荷物を載せる。

また、この便の折返し便である久保 16:44 発でも平家屋敷前停留所にてヤマト運輸セールスドライバーが集荷してきたお荷物を積み込み、最終四国交通本社営業所車庫にてヤマト運輸阿波池田営業所セールスドライバーが集荷してきたお荷物を引き取り営業所へ持ち帰るという方法をとっている。これにより、ヤマト運輸セールスドライバーが祖谷地区、山城地区と阿波池田営業

所を昼到着の荷物を営業所へ受け取りに戻る 1 往復分の負担が軽減されているようです。

セールスドライバーの移動時間が削減でき集配効率が向上され、休憩が取りやすくなり働く環境の改善がなされているとのこと。

四国交通側も連続運転時間とならないよう運行ダイヤを修正し無事に運行を開始することができた。

この事業が長く未来へ続きお互いにメリットのあるバスとなるよう「つながる未来バス」と名付け、毎日 1 往復この決まった時刻で運行させている。

バス車両については、中型バス 2 輛の車内を改造しました。2 人掛けシート 2 列撤去しそこへヤマト運輸さまのお荷物を入れるボックスを 2 箱置くスペースとした。ボックスにはロックが出来るようになっており、バス利用のお客様がボックスを勝手に開けたり、持ち出したりすることは不可能としセキュリティは守られている。

●今後の課題

ヤマト運輸さまの荷物の繁忙期(お中元、お歳暮、春の引っ越し時期)による荷物の増加に設置したボックスに入りきらない時の対応を考えている。新型コロナウイルスによりインターネット通販での商品の輸送も増えている。荷物スペースを増やすことができないか検討している。

●まとめ

ヤマト運輸さま、四国交通ともに今、運輸事業者はどこもドライバー不足が上げられております。そのような中、働き方の問題というのはどの業種、職種に於いても深刻な問題となっている。

また、高齢者の方の利用が多い地域で、三好市の中心には県立三好病院へ通院されておられるお客様、また池田町内に買い物へ来られているお客様などおられる。少なからずこの様にバスを利用して下さるお客様がおられる中で路線を維持していく方法として一定の収入が見込めるチャンスだと思っており、ヤマト運輸さまの方でも、セールスドライバーの集配効率の向上、燃料消

費量やCO₂削減によるエコ対策にも一躍買っている。

バス路線の維持でバス利用者が守られ、荷物を出したい若しくは、届けて欲しいヤマト運輸さまの利用者さまも守られ、一定の収入や路線の維持が確保出来る弊社も守られ、セールスドライバーやサービス向上などヤマト運輸さまも守られるといった、4者にメリットがある関係を結ぶことができ三好市ではこの客貨混載「つながる未来バス」が新しい風が吹き込んでいる。今後は更なる車両の更新、また他路線でも生かすことが出来ないか？また、他の貨物事業者さまとの連携できないか？といったことも合わせて考えている。